



津別町長
佐藤 多一

人口を増やしたい

町民の皆さま、新年明けましておめでとうございます。輝かしい令和5年の新春を穏やかに迎えたいこととお喜び申し上げます。

さて、この度の町長選挙におきましては、町民の皆さまをはじめ、各方面から力強いご支援と心温まるご厚情をいただき、無投票当選の栄に浴し、5度町政の重責を担わせていただくこととなりました。お寄せいただきました期待と信頼にお応えできるよう、志を高くもち、まちづくりを進めて参ります。

いま町は本格的な寒さを迎え、新型コロナウイルス感染症はその活動を活性化させています。長引くコロナ禍の中、ウイルスの脅威に慣れてしまったのか、ワクチン接種は回を追うたびに減少してい

ます。発生当初のような恐怖感はなく、ワクチンの開発により薄らいできたとはいえ、毎日報道される死者数は決して侮れる数字ではありません。町民の皆さまにおかれましては、重症化しないようワクチン接種を積極的に受けられ、加えて日常生活での対策をしっかりとついでいただくことを切に願います。

さて津別町は今、平成30年7月に策定しました「津別町複合庁舎建設等まちなか再生基本計画」に基づく事業を進めているところです。この事業は中心市街地を6つのゾーンに分けて再整備し、人口減少に対応するコンパクトなまちづくりをしようとするものです。

一昨年、この6つのゾーンの1つである「町民サービスゾーン」内に建設した役場複合庁舎は、「愛

林のまち」の象徴として木をふんだんに使うとともに、地元ペレット協同組合が製造する製品を使用していることから、気候変動に対する取り組みとしても評価され、各方面からの視察が続いています。

現在、「町民サービスゾーン」に隣接する「コミュニティゾーン」の整備を進めているところですが、建物の一階には町内のスーパードラッグストアと津別ハイヤーが入り、さらに町民の交流スペース「積木広場」とバスターミナルを配備して、二階が図書館という「大通棟」が今春完成します。完成後は、それぞれ開店や開館の準備を進めますが、できるだけ早く町民の皆さまにサービスが提供できるよう進めて参ります。

この「大通棟」の完成後は、旧農協事務所と旧議会議事堂の解体

に着手し、併せて役場複合庁舎前に小規模公園と駐車場を整備することとしています。これが令和5年に行う予定の事業です。さらにその翌年の令和6年には、ドラッグストアを含む「幸町棟」の建設を行い、「コミュニティゾーン」を完成させることとしています。

また今春、ペレット工場敷地内にチップを製造する木質バイオマスセンターが完成します。このチップは木材工芸館をはじめ「大通棟」などでも使用し、その後に建設予定の公共施設や民間施設にも供給できるような体制を整えているところです。このようにまちづくりをストーリー性をもたせて進めています。

人口を増やすためには出生数を増やすことと転入者を増やす方法がありますが、地域産業の振興はもとより、その地に生活する人々の生活環境の整備がなければ、住み続けることは困難になります。昨年は高齢者を含む大人の遊び場を整備しましたが、今年は子どもの遊び場を整備し、さまざまな世代が楽しめるまちづくりを進めて参ります。

結びに、町民の皆さまにとりまして、本年が良い年となりますようご祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。



津別町議会議長
鹿中 順一

活気のある 元気な津別町

新年明けましておめでとうございます。町民の皆さまには、輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶びを申し上げます。

令和2年1月に国内で初めて確認された新型コロナウイルス感染症は、いまだ終息することなく感染の波が繰り返されています。ワクチン接種の推進や、国産初の経口抗ウイルス薬の承認など、国による感染、治療の対策も進められています。新たな変異株も確認されるなど今後も警戒が必要です。ワクチン接種をはじめ、新しい生活様式の実践など、今後も皆さまと共にしっかりと感染対策に取り組んでいかなければなりません。

昨年の日本経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により制限されていた経済活動や社会活動も緩和され、徐々に回復の明るい兆



新年 賀 謹

しが見えてきた一方で、ロシアによるウクライナへの侵攻など、世界情勢の不安や円安によるエネルギー、食料品等の価格が高騰し、私たちの生活に大きな影響を与えています。こうした中、国においてもさまざまな政策により対策が講じられていますが、今後も適宜の対応が必要であると考えます。

一方、暗いニュースが多い中、昨年11月に開幕した2022 FIFAワールドカップにおける日本チームの活躍は、私たちに元気で勇気、喜びを与えてくれました。多くの方が日本チームを応援されたことでしょうか。改めて「スポーツの持つ力」のすごさを感じたところであります。

さて、本町においては、まちなか再生事業によりコミュニティ施設（スーパ）、図書館、交通拠点

を中心としたコミュニティ施設が本年3月に完成予定であり、中心市街地に賑わいを生む新たな地域交流の場が誕生します。多くの町民の方々に利用していただき、皆さまと共に活気のある、元気な津別町をつくっていききたいと思っております。今後も中心市街地の整備が計画されていますが、議会としてもこの町に住まわれる町民の皆さま、移住されてくる皆さまがより良い環境で生活が送れるよう、行政と協議して参ります。

また、地域資源である木質バイオマス（林地未利用材など）を活用し、資源・エネルギー・経済の持続的な地域内循環の仕組みづくり「地域内エコシステム」の構築に向けた柱の一つであります「木質バイオマスセンター」も本年3月に完成予定であります。木質バイオマスを利用しチップ加工（薪

含む）が行われ、加工された製品は、木質燃料（チップ、ペレット原料、薪）や農畜産用資材（家畜敷料や暗渠疎水材など）として幅広く町内で利用されていきます。地域産業の振興、森林の多面的機能の向上のほか、地球温暖化など環境問題にさまざまな課題がある中、化石燃料等の使用量の削減につながるなど、脱炭素社会へも貢献する大切な取り組みと考えています。

令和2年度より進められてきた津別小学校の旧校舎の改築も本年3月には完成します。児童の皆さんには、新たに学習環境を整備された校舎で元気に楽しく学校生活を送ってほしいと思います。

人口減少や少子高齢化の問題は多くの自治体が抱えている問題であります。そのような中でも、町民の皆さまが健康で安心して暮らせるまちに向け、子育て環境、医療・福祉の充実、買い物環境や移動手段の充実など、さまざまな課題に対応すべくまちづくりに取り組む必要があります。

議会としても、町民の皆さまの声が町政に反映され、豊かな暮らしを実感できるまちづくりを進めていくため、責任と役割を果たしていく所存であります。

結びになりますが、本年が町民の皆さまにとって明るく希望ある一年となりますとともに、皆さま方のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。